

タンザニアと友だちになろう ～タンザニアの文化と水問題～

授業者	大阪府大阪市立横堤小学校	井波 友里
実践教科	総合的な学習の時間 ・社会・図工	時間数 42時間 (学年 7時間)
対象	第4学年	対象人数 クラス 32名 (学年4クラス 129名)

1. 単元名

「タンザニアと友だちになろう ～タンザニアの文化と水問題～」

2. 単元設定の理由

(1) 児童観

本単元を指導するにあたり、児童に知っている国を挙げさせたところ「タンザニア」を挙げる子はいなかった。また、アフリカのイメージを問うたところ、「アフリカ＝貧しい＝かわいそう」といったイメージを4年生ながらにして漠然と持っているようであった。これまで世界のことを授業で扱う機会も少なかったため世界のことを知ることにもあまり関心を持っていないとはいえない。

また、日本の子ども達に共通することであるともいえるが、彼らは物質的に豊かな生活を当たり前のように享受している。本学級の児童の中にも自分の鉛筆を落としたとしても無くなったことにさえ気付かなかったり、面倒くさいからといって手洗いの際に水を止めようとしなかったりという姿が見受けられる。本単元の学習で自分たちの生活と世界とのつながりについて考える視点を持たせたい。

(2) 教材観

タンザニアは地理的にも遠く、私たちにとってあまり馴染みのない国であろう。少なくとも授業者自身、独立行政法人国際協力機構 大阪国際センター(JICA大阪)が主催する平成21年度教師海外研修に参加するまではそうであった。しかし、現地の生活や文化を体感し、タンザニアを知ることにより身近に感じられるようになった。「知る」ということは興味を持つ第一歩である。子どもたちにとってもタンザニアは遠い国であるが、実際に行けなくてもその文化や現地の子どもの様子を知ることが心の距離を縮めるよい機会となるだろう。

そしてタンザニアの水環境からは世界の現状を知り、世界と自分とのつながりを考えさせることができるだろう。児童は4年生1学期に社会科「命とくらしをささえる水」で、水は貴重な資源であり、生活する上で欠かすことのできないものであるということを学習している。また、「水」は身近なものであるため、自分たちの生活をふり返りながら自分にできることを考えさせられる良い教材であると考えられる。

(3) 指導観

本単元ではタンザニアを取り上げ、タンザニア文化に親しむ活動や、タンザニアの抱える開発問題から自分たちの生活をみつめ直すことができるよう授業を展開する。

指導にあたってはまず子どもたちがタンザニア文化に親しむことを大切に、その中でタンザニア文化の良さを見つけられるようにしたい。また、自国の文化にも目を向けさせ、互いの文化の違いを「良さ」として捉えられる機会にしたい。住んでいる国は違っても、自分たちと同じ(例えば「学校が大好き」や「サッカーが大好き」など)小学生の友達がタンザニアにもいるのだということを伝え、子どもたちがタンザニアと心でつながれるように工夫したい。

そしてその上でタンザニアの水環境や世界の水問題について考えてみたい。授業者はタンザニアで日本の給水支援プロジェクトについて知り、現場の視察を行うとともに、水に関わるものの写真を積極的に撮りためた。あちこちに見られる大きな水タンク、大きなバケツを頭に乗せて水を運ぶ女性、茶色く濁った水道水など、日本では見られない水環境がタンザニアにはあった。これらを効果的に活用しながら水について考えさせたい。また、JICAから青年海外協力隊として活動された方をゲストティーチャーとしてお招きし、ガーナの水環境についてお話を伺うことで世界の水環境についても知る機会としたい。

これらの学習で子どもたちが世界の現状を知り、自分たちの生活をふり返りながら自分にできることを考え、行動に移すことができるようになることを願っている。

3. 単元の目標

- タンザニアの文化に親しみ、多文化共生にむけての心情を育む。
- タンザニアや世界の水環境から自分たちの生活をみつめ直し、自分にできることを考え、実践していこうとする態度を養う。

4. 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
○タンザニアの文化に親しみながら活動している。 ○タンザニアや世界の水問題に関心を持ち、自分たちにできることを考えようとしている。	○安全な水環境がいかに大切であるかを考える。 ○自分たちの生活をふりかえり、自分たちにできることは何かを考えている。	○日本の紹介やタンザニアの友だちへのメッセージをビデオレターにまとめる。 ○水についての学習内容を新聞にまとめている。 ○自分の作りたいカングを画用紙に描く。	○タンザニアの文化や生活について知る。 ○タンザニアや世界の水環境について知る。 ○世界における日本の援助や、世界で活躍する日本人の活動を知る。

5. 学習指導計画（全42時間）

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1時限目 テーマ：出会い ねらい：タンザニアの学習に期待感をもたせる。	<ul style="list-style-type: none"> タンザニアのイメージや知っていることを出し合う。 Tangazo村の写真について話し合う。 	<ul style="list-style-type: none"> ポストカード ワークシート 写真①
2～4時限目 テーマ：知ろう！ ねらい：タンザニアの生活や文化について知る。 〈学年での学習〉	<p>(1)国語科教材「ポレポレ」から東アフリカの生活について知る。（2時間）</p> <p>(2)『タンザニアを知ろう！』（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> Google Earthで位置を確認する。 タンザニアの文化や生活を知る。 [写真②～④] ♪「Jambo Jambo」を歌う。 	<p>(1)国語科教科書・キテンゲ</p> <p>(2)カンガ・キテンゲ・キコイ</p> <ul style="list-style-type: none"> Google Earth パワーポイント CD・歌詞カード
5～6時限目 テーマ：ウガリを作ってたべよう！ ねらい：食文化を体験させる。〈学年での学習〉	<ul style="list-style-type: none"> タンザニアの食文化について知る。 ウガリの調理実習 [写真⑤～⑦] 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシート ウガリ 作り方・食べ方を書いた模造紙
7～15時限目 テーマ：カンガを作ろう！ ねらい：文化にふれさせる。	<p>(1)『カンガファッションショーをしよう』（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> カンガについて知る。 カンガやキコイを着る。 <p>(2)『世界で1枚、わたしだけのカンガを作ろう！』（8時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> カンガをデザインし、描く。 [写真⑧～⑩] 	<ul style="list-style-type: none"> カンガ・キコイ 書籍「タンザニア民話とティンガティンガ」 画用紙
16～37時限目 テーマ：友だちと仲良くなろう！ ねらい：タンザニアの子どもと心をつなぐ。	<p>(1)DVDや指導者の話からタンザニアの子どもの生活を知る。（1時間）</p> <p>(2)タンザニアの友だちに手紙を書く。（1時間）</p> <p>(3)『タンザニアの友だちにビデオレターを送ろう！』（19時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の紹介やタンザニアの友だちへのメッセージをビデオレターにまとめる。 [写真⑪～⑫] ビデオレター撮影(学習発表会にて) [写真⑬] 	<ul style="list-style-type: none"> DVD(タンザニアで撮ったビデオを編集したもの) 写真 ワークシート (2)で書いた手紙

<p>38～42時限目</p> <p>テーマ：水について考えよう！</p> <p>ねらい：タンザニアや世界の水環境から自分たちの生活をみつめ直し、自分にできることは何かを考える。</p> <p>〈(1)(2)は学年での学習〉</p>	<p>(1)『タンザニアの写真から水について考えよう。』（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・タンザニアの水環境について考える。（フォトランゲージ） [写真⑮～⑱] ・自分たちの生活についてふりかえる。 <p>(2)「JICA出前講座」（1時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA大阪のN. Aさんをゲストティーチャーとして招き、ガーナの水環境について話していただく。 <p>(3)『水新聞を作ろう!』（3時間）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの水に関する学習や自分たちにできることを考え、新聞にまとめる。 [写真⑲～⑳] 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真⑮～⑱ ・ワークシート ・パワーポイント ・プリント
--	---	--

6. 授業実践の詳細

16～37時限目「友だちと仲良くなろう!」と、38～42時限目「水について考えよう!」についての詳細。38時限目については学習指導案を掲載する。

友だちと仲良くなろう! (16～37時限目)

DVD(タンザニアで撮ったビデオを編集したもの)を見て、そこに登場したタンザニアの子どもの中からメッセージを送りたい子を選び、手紙を書く。DVDの視聴後、黒板に登場した子どもの写真を貼り、名前や年齢、どんな子か分かる範囲で子どもたちに伝えた。

手紙にはDVDから分かったタンザニアの生活、教えたいと思った日本の文化や自分たちのこと、そして多くの子が書いた「友達になろうね。」「一緒に遊ぼう。」「タンザニアに行きたいな。」などのメッセージ。これらの思いをもっとタンザニアの人に伝えられる形はないかと考え、手紙に書かれた内容を集約し、ビデオレターを作ることにした。

ビデオレターはグループごとに日本・大阪府・日本文化・食文化・私達の学校について紹介し、メッセージや歌のプレゼントを全体で発表するという構成で製作した。グループ発表に関しては各グループで調べたことをまとめ、どうしたらタンザニアの人によく伝わるだろうかと考え、地図や絵を描くなど提示資料も工夫した。歌のプレゼントは「もみじ」とスワヒリ語の歌詞の「Jambo Jambo」にした。メッセージにはこれまで学習したことと子どもの感想や、タンザニアの友だちに伝えたいメッセージを織り交ぜ、よびかけの形で発表した。これを学習発表会で撮影することで児童の保護者にもこれまでのタンザニア関連の学習内容が伝わるようにした。

【学習発表会後の児童の感想】

- ・ いっぱい調べたり、本を読んだりして、大阪府や大阪市のことが分かりました。タンザニアの人にぼくのことや4年3組のことを覚えてほしいです。今日の学習発表会が成功できて本当に嬉しかったです。
- ・ タンザニアのみんなに喜んでもらえるといいな。
- ・ ビデオレターをやっている時に教室がタンザニアになったみたいでした。緊張しましたが、すごく良かったです。これからもタンザニアのことを教えてください。

水について考えよう！ (38～42時限目)

ビデオレターの取り組みと並行して取り組んだが、タンザニアの水問題を知らせる前にタンザニア文化に親しみ、心をつなぐ活動を十分行うことを配慮した。「タンザニアの人はかわいそう」などと短絡的に思ってほしくないと思ったからである。

また、記載する水に関する授業以外に水道教室(浄水実験授業)と、遠足で浄水場の見学をし、水に関する学習を深めた。

(1)「タンザニアの写真から水について考えよう！」 本時案(38時限目)

授業までに一学期の水の学習のふりかえりと、水の重さを実感し、水くみの大変さが分かるようバケツで水を運ぶバケツリレー体験を運動場で行った。[写真⑭]二人で運んでも重たく、急げば水がこぼれるバケツに悪戦苦闘する姿が見られた。水くみの大変さが実感できるよい体験だったと考える。

(i)ねらい タンザニアの水環境について知り、自分たちの生活をみつめ直す。

(ii)展開

学習活動	指導と援助	準備物
1. 本時の学習活動について知る。	・ 本時の学習はタンザニアの写真からあるテーマについて考えることを伝える。	
2. グループを作る。	・ 切り分けた写真のピースを集め、グループを作らせる。	・ 写真(4つに切り分けてある)
3. 写真から分かったことや気付いたことをワークシートに書き、グループの友だちと交流し合う。	・ 写真(学習活動2で組み合わせたもの)からできるだけ多くのことを見つけさせる。 ・ 何の写真かをグループでよく考えさせる。	・ ワークシート
4. グループで交流し合ったことを発表する。	・ 友だちの発表を聞きながらグループ以外の写真についても考えさせる。 ・ それぞれの写真からタンザニアの水環境について話をする。 ・ 本時のテーマが水であることに気づかせる。 ・ 指導者が現地で感じた水の有り難味について話をする。 ＜写真の内容＞ ①市場(水くみなどに使われるバケツを売っている) ②ポリタンク	・ 提示用写真

<p>5. 本時の感想をまとめ、発表する。</p>	<p>③雨どい(雨水をためるタンク) ④トイレ ⑤バケツにためた水道水[写真⑮] ⑥水をくむ少女 ⑦水をくむお母さん ⑧タンガゾ村の共同水道についていたプレート[写真⑯]</p> <p>・自分の生活をふりかえりながらワークシートに感想を書けるようにする。</p>	
---------------------------	--	--

(iii) 評価ポイント・観点と評価方法

- ・タンザニアの水環境について知る。

(知識・理解) 【行動観察・発表】

- ・タンザニアの水環境から、安全で安心して飲める水が得られることの有り難味を感じ、自分たちの生活をふりかえる。

(関心・意欲・態度) 【ワークシート・行動観察】

(iv) 児童の感想

- ・ 水は大切だと(これまで)先生が言っていて、私は大切なんだなと思ったけど本当はまあいいやと思っていたのかなと思いました。水は大切なものだから今日からは水道で水を流してもすぐに止められるようにがんばろうと思いました。
- ・ タンザニアにも水道ができて良かったと思います。タンザニアの人は水を大事に使っているけど、私たちはタンザニアの子たちを見習わないと、と思いました。
- ・ 水はすごく大切なんだなあと思いました。これからは「水を大切に使って、無駄な水は出さないようにしよう！」と思いました。

(v) 考察

タンザニアと日本の水環境は大きく異なる。本時はタンザニアの水環境を示す写真を提示し、グループごとにその写真から考えたことを発表させた。それぞれの写真に大きな発見と気づきがあったようであり、気づかせたいねらいと合致した。茶色い水道水の写真[写真⑮]では「かつおだし」「りんごジュース」ではないかななどの意見が出た。それが水道水だという事実は子どもたちにとってとても衝撃的だったようである。また、日本の援助で作られた共同水道のプレートの写真[写真⑯]からは二国の国旗と「friendship」「water」などの単語から「タンザニアと日本は友だちだから水をあげるんじゃないか」と考えている子どももいた。写真が多くて時間に余裕はなかったが、タンザニアの水環境を知り、日本の恵まれた水環境や自分たちの水の使い方をふりかえることにおいてはとても効果的であった。児童の感想からも、評価に挙げた2点を十分達成したといえ、本時のねらいについて達成できたものと考えられる。

また、指導者の話だけでなく、本時を参観いただいたJICAの方々や教師海外研修で同行された先生からタンザニア以外の国々の水環境の話も伺ったことで、日本の水環

境がいかに恵まれたものであるかをより伝えることができた。今後学習を深めていくなかで子どもたちに水の使い方を含め、自分にできることについても考える視点を持たせていきたい。

(2) JICA出前講座

JICA大阪デスクのN. Aさんをゲストティーチャーとしてお招きし、ガーナの文化や水環境について話をしていただいた。子どもたちは「あ、タンザニアと同じ！」など、タンザニアとも比較しながらN. Aさんの話に聞き入っていた。ガーナの文化に興味をもつとともに、安全でない水を使うことで起こる病気やそれを防ぐための現地での活動など、水に関するお話では改めて水環境について考えることができた。タンザニアだけでなくガーナの水環境も知ることで、子どもたちの水問題への視点をよりグローバルにすることができたであろう。またN. Aさんから、現地に入り込んで国際協力を行う青年海外協力隊の活動についても話を聞くことができたことも良かったと考える。

【N. Aさんへの児童の手紙】

- ・ 水は本当になくってはならないものなんだということが分かりました。これからは水を大事にしていろんな人に言って広めていきたいと思いました。
- ・ ガーナの人のギニアウォームを見てとても怖かったです。「安全な水」を飲めないことは本当に怖いなと思いました。私たちの普通に使っている水はすごいものなんだなと思いました。
- ・ 水の中の虫を駆除する活動(病気の撲滅活動の一つとして行っている)を日本がしているのを知って、日本とタンザニアも仲良しだったけど、日本とガーナも仲良しなんだなと思いました。

(3)水新聞を作ろう！

これまでの水に関する学習を各自一枚の新聞にまとめた。日本・タンザニア・ガーナの三国の水環境を記事にする子、浄水の過程や浄水場についてまとめる子など記事は様々であるが、水が大切であるということを伝える内容に工夫されていた。「世界の水を守ろう！」と、自分たちにできることを考え、節水法など調べたことを書いている子もいた。また、新聞名にも「大切な水新聞」や「水について知ろう新聞」、「世界の水新聞」など、子どもたちの思いがこめられているようだった。紙面いっぱいびっしりと書かれた子どもたちの文字からもこの学習が子どもたちにとって大きな学びとなったことが読み取れた。

7. 使用教材・授業の様子（抜粋）

出会い（1 時限目）

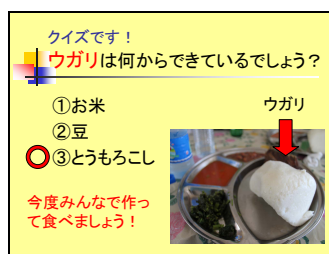


①

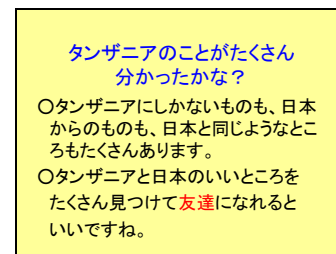
タンザニアを知ろう！（2～4 時限目） パワーポイントより



②



③



④

ウガリを作って食べよう！（5～6 時限目）



⑤ 提示物



⑥ 調理実習



⑦ 手食の体験

カンガを作ろう！（7～15 時限目）



⑧



⑨ 作品



⑩

タンザニアの友だちにビデオレターを送ろう！ (16～37時限目)



⑪ 手紙の内容を
グルーピング



⑫ 提示資料の作成



⑬ 「あなたは私の友だち」

水について考えよう！ (38～42時限目)



⑭ バケツリレー体験



⑮ 水道水



⑯ プレート



⑰ 38時限目の板書



⑱ 板書(⑰の続き)



⑲水新聞



⑳

8. 考察 (単元を終えて)

地理的にも心的にも遠かったタンザニアであるが、授業で話をしていく中で子どもたちがタンザニア文化に興味を持ち、楽しみながら学習ができたことは、多文化共生にむけての心情を育む第一歩になったのではないかと思う。生活や文化は違うけど、“学校が好き、

友達が好き、遊ぶのが好き”といった自分たちと同じ思いを持つ子どもたちがタンザニアにいたということを知ってほしいと学習計画を立てたが、子どもたちはあらゆる場面でタンザニアの友だちに思いを寄せ、心をつなぐことができたと思う。多教科に渡り授業を柔軟に行えたことも大きかっただろう。また、ビデオレター製作など日本文化や自分たちの町について調べることは自国の良さに気づく機会にもなった。今後、タンザニアやガーナといったアフリカ以外の国についても親しみをもち、積極的に関わっていきけるような活動を考えていきたい。

水の学習では、安全で安心して飲める水に簡単にアクセスできる日本の豊かさや、それが世界ではままならないところが多いということを効果的に伝えることができた。また、子どもたちの行動にも水を大切にしようという意識がよく表れるようになった。何度注意しても「面倒くさい」と手洗い・うがい時に水を止めようとしなかった子が自主的に水を止めるようになったり、友だち同士で注意し合う声が聞かれるようになったりした。世界の現状を知り、自分たちの生活をふりかえりながら、自分たちにできることを実践していこうとしていることがよく表れている。既習である単元としての水の学習にとどまらず、水道教室(浄水実験授業)と浄水場見学とともにこの「水について考えよう!」の学習ができたことで学習をより深めることができたのだと考える。今後も水だけでなく地球環境や資源について考える機会を継続的に作っていく必要があると考える。

また水の学習を含め、学年で国際理解教育に取り組めたことも有意義であったと考える。学年で共通理解を図りながら、継続的に取り組んでいくことが大事であろう。学年が上がるにつれ、知識も増え、より深く物事をとらえられるようになる。学年に応じた取り組みを各教科と関連させながら行えるよう今後も考えていかなければならない。

JICA出前講座の後、「どうしたらJICAでお仕事ができるんですか。」とN. Aさんに聞くなど国際協力の仕事に興味をもつ子や、国は違っても「みんな仲間」なんだとN. Aさんへの手紙に書いている子の姿が見られた。これらの子どもたちの姿に私は大きな可能性を感じることができた。これらの取り組みが子どもたちに世界との繋がりを感じさせたり、今後の自分のあり方を考えさせたりする一つのきっかけになったのだと思う。私自身まだまだ世界のことを知る必要があるが、今後も子どもたちの心を世界とつなぐ取り組みを考え、継続した実践を行っていきたい。

9. 参考資料

- ・ 橋本 淳司著 『世界が水を奪い合う日・日本が水を奪われる日』PHP研究所 2009
- ・ 財団法人 日本経済教育センター『ビデオ・経済教育資料「地球をまわる水の旅～限りある水のはなし～」』2003
- ・ 宇野 みどり著 『タンザニア民話とティンガティンガ ～虹の七色はどこからきたの?～』国際語学社 2005
- ・ たくさんのふしぎ傑作集 『エンザロ村のかまど』福音館書店 2009